

# 対談

## 高齢者擬似体験をした 2人が語るまちづくり

まちづくり推進課  
主査 吉田  
×  
商業観光課  
主事 畑山

吉 からは大丈夫ですが、値段を確認するのは大変。お金を出すときに、ゆっくりと待つてもらえる状況なら安心して買い物ができます。年を重ねれば重ねるほど、自分を知っている人から買いたくなるだろうと思いました。

吉 またちなかには、その価値があると思います。各機能を活用し「買い物」を充実させるためにも、多くの市民の方に商店の魅力を知ってもらいたいです。前回のまちゼミは大盛況で、手応えを感じました。今のためではなく、いつか困ったときに相談できる店づくりが、安心して楽しい買い物につながると思います。

畑 これから30年後、40年後を想像したとき、外出するきっかけの一つが買い物だと思います。心と身体の健康のためにも、外出して買い物できる環境を整えていきたいです。買い物は生活の一部ですからね。

畑 何歳になっても、買い物は楽しく生活の潤いであるべき。それを守るために、苦勞しながらも頑張つて経営している商店の人を応援します。高齢者に優しい買い物を支援することは、未来の自分のためにもなりますしね。

吉 運転ができれば大丈夫と思っていましたが、運転できなかつたら…。銀行で年金をおろしたり、市役所で手続きをしたり、絶対行く用事のために、買い物も済ませたいはす。

吉 そうですね。若いといわれる苫小牧市も、超高齢社会。各地域の商店会のモデルケースの一つとして、ちなかを盛り上げ、にぎわいをつくりたいです。ちよつと高くても納得できる買い物ができたり、コミュニケーションをとりながら買い物を楽しめたり、価値ある買い物ができるまち・苫小牧を目指していきたいですね。

畑 レジ体験では、まず杖をどこに立てるか悩みました。次に荷物を置けるところ。お金を払うことは、両手をつかう作業なんですよ。

畑 そうなると、まちなかの買い物機能を充実させることが、苫小牧市にとっては一番ですね。官公庁も近いし、公共交通の連



まちづくり推進課主査 吉田

30年後、40年後も  
買い物を  
楽しめるまちへ

商業観光課主事 畑山

「いつかは自分も高齢者」との思いから、地域の買い物を高齢者でも楽しめるよう、各地域の商店街活性化にむけた事業を担当。

「人と人のつながり」をテーマに、まちなかのにぎわいを取り戻せるよう、まちゼミやまちなか交流センターなどの事業を担当。

## 高齢者疑似体験

### チャレンジしました!

聴力、視力を制限。また、足・腕・首関節の可動域を狭め、腰の曲がった状態で歩行。

#### 外を歩く



視界が狭い。いつ信号が変わったかわからないから、横断歩道がとて不安(畑)

#### いす・杖



いすを見つけ、思わず座ってしまう。ずっと立っていることは、体力的に難しい(畑) ※市役所では、1・2階の窓口に「杖やすめ」を設置している。

#### レジ体験



杖と荷物を置く。杖が不安定だと、レジに集中できない。視力が悪くなると、小銭選びが大変(吉)

#### 階段下り



体重が前のめり。荷物に振り回されて、手すりにつかまってもと安定(畑)

## 募集

平成26年秋、ゼウスシティ跡地にまちなか交流センターを開設します。その条例案に対するみなさんの意見を募集します。

### まちなか交流センター 意見を募集します

**用紙配布** まちづくり推進課 (HPも可)、各コミセン、植苗ファミリーセンター、勇払出張所

**申し込み・詳細** 8月15日(木)までに直接、郵送(消印有効)、ファクスまたはEメールで まちづくり推進課 ☎ 32-6062 ☎ 32-3808 ✉ [matinaka@city.tomakomai.hokkaido.jp](mailto:matinaka@city.tomakomai.hokkaido.jp)